

科目	専攻科特別研究II (Graduation Thesis for Advanced Course II)		
担当教員	専攻科講義科目担当教員		
対象学年等	応用化学専攻・2年・通年・必修・8単位		
学習・教育目標	工学複合プログラム	B1(15%) B2(10%) B4(5%) C2(70%)	JABEE基準1(1) (d)2-a,(d)2-b,(d)2-c,(e),(f),(g)
授業の概要と方針	専攻科特別研究Iを継続し、高度な専門工学分野の研究を行う。専門知識の総合化により研究開発およびデザイン能力を高める。研究課題における問題を学生自ら発見し、体系的に問題解決する能力を養う。研究テーマの設定にあたっては研究の新規性、有用性、理論的検討を重視する。研究の内容や進捗状況を確認し、プレゼンテーション能力の向上を図るため発表会を実施する。研究成果を報告書にまとめ提出する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C2】 設定した研究テーマについて、指導教員の下で基礎知識や専門知識を総合して研究を遂行する能力を養う。		研究活動と報告書および発表会の内容を評価シートを用いて評価する。他の項目と合わせて合計100点とする。
2	【B1】 研究成果を報告書としてまとめ、簡潔に研究内容を発表する能力を身に付ける。		特別研究発表会30点（内容と構成10点、発表10点、質疑応答10点）として評価する。他の項目と合わせて合計100点とする。
3	【B2】 研究内容に関する質問に対して的確に回答できる。		特別研究発表会30点（内容と構成10点、発表10点、質疑応答10点）として評価する。他の項目と合わせて合計100点とする。
4	【B4】 研究に関連した英語の文献を参照し、また研究内容の概要を的確な英文で示すことができる。		報告書を評価シートを用いて評価する。他の項目と合わせて合計100点とする。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、特別研究報告書70%、特別研究発表会30%として評価する。		
テキスト			
参考書			
関連科目	該当分野あるいは周辺分野の科目すべて。		
履修上の注意事項	研究の展開には、本科および専攻科で学んだ幅広い知識がベースとなる。		

授業計画 1 (専攻科特別研究II)

内容(テーマ, 目標, 準備など)

研究は下記の特別研究Iのテーマを引き続いて行われる。

(1)相平衡・相間物質移動とその工業装置の特性解析

相平衡としては減圧下の気液平衡実測とその液相非理想性の導出, 物質移動としては液液系の物質移動実験として単一液滴内への移動係数の実測, 装置としては液液抽出装置 (Kaar カラム等) の流動特性・物質移動特性におよぼす各種因子の影響について解析する。

(2)人工抗体分子の創製

黄色ブドウ球菌S.aureus由来のProtein A のZドメインのコンビナトリアル変異により, がん遺伝子産物などを標的とした, アフィニティーリガンド分子を創製し, 人工抗体分子としての機能を検討する。

(3)気相中の化学反応に関する研究

気相中での化学反応において, 反応分子の自由度が化学反応に与える影響について, 速度論と動力学の両面からの解明を試みる。必要に応じて実験や量子科学計算を用いる。

(4)光合成色素の励起状態の物理化学

光合成色素の一つ, カロテノイドの補助集光・光保護作用の機能発現の機構を物理化学的視点より研究する。色素蛋白やカロテノイドを単離精製 (生化学・有機化学) して種々の分光法を応用 (物理化学) したり, 理論計算 (物理学) を行つて, カロテノイドの励起状態の特性を調べ上げ, 光合成系での機能発現の機構を考察する。

(5)(1)M-C 結合を有する有機金属錯体の合成と応用 (2)ポリアセン化合物, ポリキノリノール化合物の合成

抗腫瘍活性剤, 有機EL素子, 有機デバイスへの展開を目的とした新規有機化合物および新規有機化合物の合成を行う。キノリール誘導体とPdやPtなどの遷移金属から生成するM-C 結合を有する有機金属錯体を合成する。ペンタセンに代表されるようなポリアセン化合物やポリキノリノール化合物を合成する。

(6)(1)セルロースの超臨界水分解による水素ガスの製造 (2)ポリ塩化ビニルの超臨界水分解によるケミカルリサイクル

超臨界水のもつ優れた特性を廃プラスチックのケミカルリサイクル技術へ応用し, 原料モノマーや他の有用な物質へ変換する方法の確立を目指したものである。

(7)グルコース残基を側鎖に持つポリウレタン

グルコース残基を側鎖に持つポリウレタン及びセグメント化ポリウレタンを新たに合成し, その生分解性, 生体適合性及び吸水性を調べる。そのデータを基に, 生体ポリマーや細胞培養材料としての可能性を検討する。

(8)液晶性ポリウレタンの合成とその性質

側鎖にビフェニル基や芳香族アゾ化合物を含むポリウレタンを新たに合成する。得られたポリマーの熱的性質を詳細に調べ, その液晶性を検討する。

備考

中間試験および定期試験は実施しない。